

地域の実情にあった医療を考える

「医療に名を借りた「ハコモノ行政」は必ず破綻する」



山武郡は医療過疎だと言われるが、医療困難地ではない。東金や大網白里には優秀なクリニックが多い。それでも医療過疎だと言われる理由は、①人口あたりの医師数が県下で最も少ない②3次救急病院がない③救急搬送の管外搬送率が高い④搬送時間が長いなどがあげられる。

◆救病は初期治療が大切！

山武郡の救急搬送時間がかかる理由は、搬送病院が遠いからではなく、搬送先が決まらないからだ。近くに病院がないのではなく、近くの病院に夜間救急の体制が整っていないからだ。患者も1次2次救急患者の救急搬送が多く、救急車を使う必要のない患者も多い。管内の2次救急医療を充実させることや救急救命士による的確なトリアージ（適した病院につれていくた

1次救急とは、風邪などの軽微な病気やけがの治療。
2次救急は、入院が必要な病気やけが。大網病院、東金病院、さんむ医療センター（旧成東病院）などで行われる医療。
3次救急はさらに重篤な状態の病気やけがで、患者は1000人に1人の割合。

め選択）が必要だ。

それでは一刻を争う心臓疾患や脳疾患はどうだろう。病院までの搬送時間が50分（郡平均）から40分（県平均）に短縮されて劇的に病気が改善されるのか。心臓や呼吸が5分も止まれば救命率は激減する。必要なのは優秀な救急救命士が一早く駆けつけ、近くの病院（大網病院など）で適切な初期治療をすることだ。

2年前に重篤な「くも膜下出血」で倒れた友人が東金病院に運ばれ、その後千葉北の脳外科医院に搬送された。手術は最も適したタイミングを見計らい三日後に行われた。東金病院長による的確な初期治療のおかげで、友人は奇跡的に死地から生還した。また交通事故で多臓器が損傷したり、重度のやけどは幕張の救急救命センターなどでもしか治療できない。これはドクターヘリで対応できる。

◆3次救急病院は必要か？

東金市の工業団地に3次救急病院の建設が進められている。3次救急病院を維持するには、近隣人口が60万人以上

と言われ、山武郡の市町村では難しい。また多くの医師や看護師、コメディカルが必要になるが、千葉県は建物建設の一部の支援しかない。

あまり知られていないがここ数年、新しく建てられた立派な公的病院で経営が成り立っているところはない。日本中でどこでもだめなのだ。人口も医師数もお金も足りない東金市・九十九里町でうまくいく可能性はゼロと言っても言い過ぎではない。

東金に計画されている病院計画は既に破綻している。このまま病院のハコモノだけ建てても、数年後には民間病院（公的医療は縮小）に売り飛ばされ、借金だけ地元に残されかねない。さんむ医療センターや大網病院と患者の取り合いになり、気がついたらこの地域の公的医療が全てなくなる事態も危惧される。

◆2次救急充実が住民利益

県が病床数を許可したり、医療計画をたてるときに使う地域割りを保健医療圏という。最近保健医療圏が変更され、長生・夷隅郡と山武郡が

一つの医療圏になった。東金に新病院を建てるために医療過疎同士を統合したとも考えられる。もともと夷隅郡は亀田病院に近いし、山武郡は旭中央病院や千葉市が近い。芝山町から勝浦市までの巨大な保健医療圏で全ての医療を完結させることは実態を反映していない。この地域で無理して3次救急病院を維持して地域医療を崩壊させるより、2次救急を充実させることが住民により多くの利益がある。

◆ハコモノ優先は軌道修正を

高負担覚悟で地域の人々が3次救急病院を選択するといふのまで否定するつもりはない。計画では新病院の1日あたりの入院単価は4万5千円である。現在の大網病院や東金病院より1万円も高い高度医療を行わなければ経営がなりたない。当然外来患者も制限される。紹介状のない患者はうけいれられない。そうしないと計画どおりの医療収入は得られない。一方で大網病院の医療内容が縮小されて不便になる可能性もある。

東金のハコモノ病院建設は進んでしまう可能性が高い。しかし、地域の医療全体が破綻する前に、医療内容や規模を、そして医師や看護師の配

置などを見直し、現在の地域医療を担っている大網病院や東金病院、さんむ医療センターなどと連携する方向で軌道修正するべきだ。

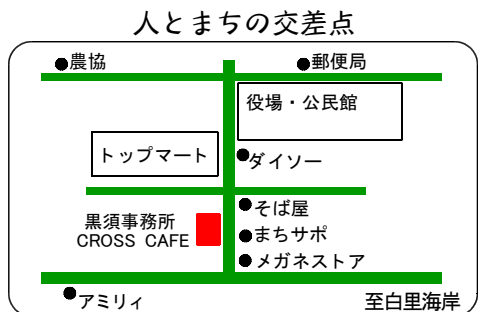
◆10年後の医療は？

そもそも日本の医師数はOECD加盟国中最低レベルだ。これは長い間自民党と日本医師会が医師数抑制政策を続けていたことが原因だ。その結果、公立病院等の勤務医や小児科や産科などで医師不足が顕著だ。それでも日本の健康保険制度や医療レベルと

切り離して外国や他県と比べても意味がない。

千葉県における今後の課題は、団塊の世代が10年後に75歳をむかえ、慢性疾患（糖尿病など）患者の激増にどう対処していくかである。山武郡以上に千葉市や東葛地域の医療は深刻であろう。2次救急医療の充実と慢性疾患への対応が求められる。そして医療に頼り過ぎるのではなく、保健分野、介護分野がますます重要になってくる。健康寿命を延ばす施策こそ地方自治体の得意分野だと考える。

CROSS CAFEが OPENしました



●午前10時～午後7時
 日々の暮らしの中の小さなことなど、様々なことをおしゃべりしながらゆるやかな時間を過ごしていただければと思います。お茶を用意してお待ちします。
 ※11月5日(土)まで開設

▼「十枝の森」を「こ存じ」ですか。両総用水を作るのに尽力された本町の偉人、十枝雄三さんの残された土地・家屋を娘の澄子さんが町へ寄付されたものです。適度に残された自然が季節を感じる憩いの場所として、多くの方が訪れています。▼今春、澄子さんが亡くなられました。ボランティアの方々だけで、広い森を手入れするのは大変なようです。家屋は管理する方がいなくなり、老朽化が心配です。▼広い森はお年寄りも子どもたちも憩える場所です。世代間交流の拠点として活かすことを提案したいと思います。

